

真宗と現代葬儀研修会

テーマ：葬儀とは誰のためのものか

～多死社会において真宗の葬儀を問い返す～

多死社会の中で、私たちは葬儀を通して他者の死とどう向き合っていけば良いのか。浄土真宗の葬儀の意義を、現代の現実から問い直します。

2026年

4

15

(水)

14時～

16時30分まで

会場 真宗会館ホール

講師 相馬豊氏（金沢教区 第4上組 道因寺 住職）

日程

14:00 開会

14:10 講義（70分）

15:20 休憩（10分）

15:30 公開対談

16:00 質疑応答・総評

16:30 閉会

主催：金沢教区教化委員会 真宗同朋会推進会議

お問い合わせ 金沢教務所 〒920-0854 石川県金沢市安江町15番52号

TEL:076-265-5191 / Fax:076-265-5192

開催趣旨

「多死社会」（出生数を大幅に上回る死者が発生し続ける社会）に突入した日本。ここ金沢においても、家族葬が約7割を占めるというデータが示すように、葬儀の簡素化はもはや例外ではなく、私たちの日常的な選択となりつつあります。そうした現実の中で、現場から聞こえてくるのは、「ご縁のあった方（恩師・友人など）のお通夜や葬儀に参列したい」という切実な声です。

死者に対してそれぞれ異なる思いを抱えた一人ひとりが一同に会し、声なき声に耳を澄ませながら「尋ね合う」ことによる、葬儀を単なる区切りや手続きではなく、儀式としてお勤めする根幹的な意義があるのではないのでしょうか。

しかし現実には、「家族だけで故人を見送るアットホームな葬儀」という言葉のもとで、身内以外の方が会葬する場が、静かに、しかし確実に失われつつあります。これは果たして、故人や遺族にとって本当に豊かな別れと言えるのでしょうか。

さらに言えば、家族葬の広がりによって他者の死に接する機会そのものが減少していることは、他人の命を軽視することにつながり、無縁社会をいっそう深刻なものへと押し進めているのではないかという問いを、私たちは免れることができません。

金沢教区ではこれまで、「真宗と現代葬儀」をテーマに研修を重ねてまいりました。本研修会では、相馬豊氏（道因寺住職・真宗大谷派修練道場長）を講師にお迎えし、現代における葬儀の現実を直視しつつ、浄土真宗の葬儀において何を大切に受けとめ、何を次代へ手渡していくのかを、参加者一人ひとりが自らの問題として問い直す場としたいと考えております。御寺院、御門徒の皆様のご参加を、心よりお待ちしております。